



「起業家とは何か」について話し合う参加者たち

県内起業 君ならどうする？

八学大 若者向け講義

八 戸 若者を対象とした「起業家養成集中講義」が今月上旬、3日間にわたって八戸市で行われた。19～25歳の男女9人が市内のホテルに泊まりながら、起業についてのノウハウを一からみっちり学び、おおもりカシスの市場拡大策や南部町で取れる果物のブランド化といった、オリジナルのビジネスプランを作り上げた。地方の人材流出対策として主催した八戸学院大学関係者は「今後、県内の各大学と連携して取り組みを広げたい」と話す。(山内はるみ)

交差点

同大はこれまで1期が半年以上の起業家養成講座を12期開いてきたが、今回は対象を本県出身や県内の大学に通う若者に絞った短期集中型。各大学が強みを生かして地域活性化の拠点を目指す「地(知)の拠点大学」による地方創生推進事業「COO+」の一環として開いた。同講座のOBや経営コンサルティンクの専門家などを講師に迎え、起業について学ぶと同時に、それぞれが考えたビジネスアイデアをより具体的なプランへと「見える化」した。

参加した9人は起業を目指す人、自分で起業する気はないけれど「なぜ起業したいと思うか」に興味がある人など思いはさまざま。二つのグループに分かれ、それぞれ一つずつアイデアを練った。初めはビジネスの対象や目的を固めることができず方向性が定まらなかつたり、計画が行き詰まったりと苦戦。しかし、講義を重ね議論が進むごとに自分たちなりのビジネスが形になっていった。最終的に①おおもりカシスの市場拡大のため収穫機を開発すること、②恵まれな家庭環境などで育ち道を外れたアウトローな人をカシス農家の担い手として育てる③南部町で取れる豊富な果物を活用



講義最終日、自分たちのビジネスプランについてプレゼンテーションする参加者たち

し、30日違う味が楽しめるフルーツティーを作る」という二つのプランを完成させた。「他人に縛られたくない、仲間と群れることを好むというアウトローな人は、服装などが自由で、みんなと協力しながら作業する農業に向いているんです。収穫機を作って販路を開拓し、おおもりカシスに革命を起こします」

「南部町で取れる果物は299種類あり、さまざまなお茶と組み合わせれば毎日違う味を楽しめる。町から全国へ売り出す」

● あおもりカシス市場拡大 ● 南部町のフルーツティー

地域活性化へ独自プラン

講師からは「非常にソーシャル・インパクト(それをやることで世の中がどう変わるか)があり、目の付け所が面白い」といった評価の一方、「採算が取れるのかはつきりせず、ビジネスとして成功するか不安」といった指摘も。9人は熱心にメモを取りながら真剣なまなざしで聞き入っていた。

4月から重機メーカーに就職する東京大経済学部4年の久住美法子さん(22)「南部町出身」は、「起業はリスクがあってもいいイメージだったけど、今は夢があつて魅力的なものと感じている。強い思いを傾けられる何かに出会えたら、ぜひ起業して形にしたい」と充実した表情。

八戸学院大ビジネス学部1年の岩間勝己さん(19)は「これまで勉強してきたことを生かし、起業した人をサポートする仕事に就きたいと思った。進路を考えるためのいい経験になった」と話した。同大の松山政義学長補佐は「教える側の体制を整えれば、人材を地域に残す一つの事業としてやっていけると手心えを感じた」と語った。